

# IoTが創る 徳島の未来

スマホの登場からわずか10年で私たちの日常生活のシーンは大きく変わりました。IoT（モノのインターネット。センサーと通信を介して、すべてのモノやできごとがつながる技術）やAI（人工知能）も、今後あらゆる産業で利用が進み、業務の姿を大きく変えていくことでしょう。キーワードは、データの自動収集、データの活用、ノウハウの外販です。

徳島でも、IoT活用に一歩踏み出した企業が登場してきています。

自動車部品メーカーのヨコタコーポレーションは、工場の機械の障害停止情報を、タブレットのカメラとメール機能等を使って自動的に収集するシステムを構築しました。仕組みが単純すぎてかえって凄さが分かりにくいのですが、非常に大きな可能性を秘めています。このシステムを使うことでそれぞれの機械の障害データが自動的にパソコンに蓄積されていきます。このデータは次に故障しそうな機械を予測しあらかじめメンテナンスすることで、ライン停止時間を短縮することに活用されています。これだけでもIoTに取り組んだ甲斐があるというのですが、同社は更に先の展開を展望しています。それは、ソリューションの外販です。このシステムは全国のトヨタ系工場で活用できます。更にブラッシュ・アップし、使い勝手のよいデータ解析アプリなどをセットにすれば外販できるでしょう。

LPガス販売メーカーの関連会社・スタンシステムは、IoTに適した低速・低価格の通信方式を使って、ガスメータの自動検針や配送車の走行データ取得の実証実験を行いました。検針メーターの通信料は、最も条件がよい場合は毎日検針しても1台当たり月たった1円で済み、検針に人手もかかりません。配送車の走行データを分析すれば、配送ルートを効率化でき、運転手不足対策にもなります。

両社とも、徳島経済研究所が主催する「徳島IoT活用研究会」がきっかけでIoTの活用に取り組み始めました。IoTはひとりではなく、いろいろな人や企業の助けを借りながら取り組むものです。当研究所では、今後ともさまざまな関係者と連携しながら情報を収集・発信するとともに、人や企業の紹介をすることなどを通じてIoTに取り組もうとするみなさまのお手伝いのできればと思っていますので、お気軽にお声かけください。

なお、両社の取り組みの詳細は、今号の「パネルディスカッション『IoTの活用の実際』」をご覧ください。